

サイクルの定義

サイクルは一定の間隔で繰り返し起こる測定可能な現象。

その現象は一定の間隔で 80%以上の確率 で起こる。

一定の間隔とは特定日、あるいは特定の週を意味するものではなく、間隔の範囲内、時間の許容範囲である。

「6週サイクル」という場合、5～7週サイクルが80%以上の確率で起こることである。

- ・ **メリマンのサイクルは波が安定している安値から安値である。ちなみに天井から天井では長さがぶれる。**

オーブ（許容範囲）

サイクルにはオーブと中心がある。オーブとは、そのサイクルの中心からの距離。サイクルの中心とは、平均的な時間の長さをいう。

一般的にサイクルのオーブはサイクルの中心の 6分の1。従って、「6週サイクル」は前後に1週のオーブがあるので 5～7週 ということになる。

18週プライマリーサイクルのオーブは 3週。18週サイクルの正常な間隔は18週プラス・マイナス3週の 15～21週 となる。

- ・ **オーブとはアストロロジーの専門用語をサイクルに活用したもの。**

短縮

サイクルがオーブを含む時間帯の 80%未満 の状態で終了した時、「短縮」されたと言われる。

もし「6週サイクル」が 4週間未満 で終了すれば、それは「短縮」されたサイクルである。

この現象は通常、長期サイクルが終了する時に起こる。

長期サイクルの中間点でサイクルが短縮されることは稀。

- ・ **長いサイクルは短いサイクルを支配する（サイクルの優越）。**

延長

サイクルがオーブを含む正常の時間帯を超えて終了する時、サイクルが「延長」されたという

長期サイクルの終了する時、延長される傾向があるが、「短縮」の場合ほど頻繁には起こらない。

プライマリーサイクルが終了する時、「6週サイクル」は8～9週間に延長されるかも知れない。

長期サイクルの「支配性」は通常、短期サイクルを延長させるケースよりは短縮させるケースの方が多い。

- ・ **日経平均（13～19週）の場合、12週未満なら短縮、20週以上なら延長されたことになる。**

内包サイクル

全てのサイクルはより小さいサイクルにより構成されている。

18週サイクル(オープを入れて15~21週)のプライマリーサイクルには通常、3個ないし4個の6週サイクル(メジャーサイクル)が入っている。

どのサイクルもより大きいサイクルの一部である。例えば、3個ないし4個のプライマリーサイクルが50週サイクル(38~62週)を構成する。

- ・ **メリマンは数年前から50週サイクルを6週サイクル3つから形成される48週サイクルに修正した。**

優越サイクル

実践で役に立つサイクルは「優越サイクル」である

強気相場ではサイクルの開始時が最安値であり、弱気相場ではサイクルの終了時が最安値である。

もし、サイクルの開始時と終了時の間に安値が出現すれば、そのサイクルは優越サイクルではない。優越サイクルでないとすれば、そのサイクルはトレーディングには役に立たない

- ・ **長いサイクルがボトムをつける時は、短いサイクルはすべてボトムをつける。**

支配性と歪み

大きいサイクルが小さいサイクルを圧倒する時、大きいサイクルが小さいサイクルを支配するという。

この現象は大きいサイクルが終了する時間帯に起こる。

大きいサイクルの終了間際に、全ての小さいサイクルの正常な時間帯に「歪み」が現れる(短縮あるいは延長)。

相場がそのサイクルのどこに位置しているのか理解しなければならない。

トレンド

「ライト・トランスレーション」

強気サイクルの最安値はサイクルの開始時につける。サイクルの最高値は通常サイクルの中間点を過ぎてから出現する。サイクルの中で相場が上昇する期間が長く、下降期間が短い。

- ・ **サイクルの天井が右側に位置する。**

「レフト・トランスレーション」

弱気サイクルの最安値はサイクルの開始時ではなく、終了時である。サイクルの安値と安値の間に出現する最高値(天井)は、サイクルの前半部分に出現する傾向がある。相場は上昇する期間よりも下落する期間が長い。

- ・ **サイクルの天井が左側に位置する。**

PC：プライマリーサイクル

ほとんどの市場でこのサイクルは安値から安値までの長さが 17 週ないし 18 週である。

平均的なサイクルの長さとおープ（週単位）

米国株式指数	17 (13~21)	日本株式	16 (13~19)
金	18 (15~21)	穀物	17 (13~21)
T ボンド	23 (18~28)	ドル/円	33 (26~40)

これらの時間帯は時代の変化と共に若干変動する。

- ・ ドルのボトムは円の天井であり、重なり合っているためサイクルの長さが倍になるのではないかと判断されるのではないかと。

長期サイクル

長期サイクルの中には少なくとも 2 個のプライマリーサイクルが入っており、3 個以上入っている場合が多い。

長期サイクルは、そのサイクルよりも短い長期サイクルかプライマリーサイクルの倍数により構成されている。

長期サイクルが終了する時には、短いサイクルに対し支配性を発揮する。

長期サイクルがトレンドを示した場合、次の長期サイクルも同じトレンドを示す可能性が高い。

- ・ 長期サイクルの方がプライマリーサイクルより長い。
- ・ 日経平均は 48 週サイクル（プライマリーサイクル 6 週 × 3 個 = 18 週 × 3 = 48 週）であり、長期サイクルとして、54 年のコンドラチェフの波がある（18 年サイクルがいくつか入る）。前回 1945 年は終戦のときであり、次の 1999 年がオープ 9 年（即ち 9 年前か 9 年後）。日経平均は 2002 年 2 月にボトムをつけたと判断されるのではないかと。

短期サイクル

プライマリーサイクルより短いサイクル。

一般的に相場サイクルの分析に使用するものは 2 ~ 3 個の短期サイクルである。

HPC：ハーフプライマリーサイクル

プライマリーサイクルの中に 2 個のハーフプライマリーサイクルが入り、2 番目のハーフプライマリーサイクルのボトムはプライマリーサイクルのボトムでもある。

- ・ ハーフプライマリーサイクルは気まぐれであり出ないが、出た場合ボトムはメジャーサイクルのボトムよりも深い。

MC：メジャーサイクル

プライマリーサイクルの中に通常3個、時として4個のメジャーサイクルが入る。

このサイクルは、多くの市場においてその長さの中心が6週間なので、しばしば「6週サイクル」と呼ばれる。

プライマリーサイクルの中の最後のメジャーサイクルボトムは、プライマリーサイクルのボトムと一致するので、プライマリーサイクル・ボトムと呼ばれる。

メジャーサイクルは、ハーフプライマリーサイクルよりもはるかに一貫性がある。出現の頻度は80%を上回る。

市場における各メジャーサイクルの中心時間帯、並びにオーブを含む時間帯(週単位)

米国株式指数	6 (5~7)	日本株式	5 (4~7)
金	6 (5~7)	穀物	5.5 (4~7)
Tボンド	5 (4~6)	ドル/円	11.5 (9~17)

トレーディングサイクル

各メジャーサイクルの中に2個(時として3個)のトレーディングサイクルが入る。

トレーディングサイクルの長さは通常、メジャーサイクルの長さの半分(時として3分の1)である。

金の場合、メジャーサイクルの長さは6週であるから、その中に2~4週のトレーディングサイクルが2個入ることが多い。

このサイクルはプライマリーサイクルに次いで有効である。

- ・ 日足チャートで安値から安値で見て20営業日目に出るが、短縮する場合は15日目、延長する場合は23日目頃に出る。
- ・ トレーディングサイクルはかなり有効であるが、大局的な動きを見ておかなければならない。

相場の大反転

トレンド反転の変動幅は一定のルールがある。

プライマリーサイクルないし長期サイクルのトレンドに対する反転の動きは、関連するより大きいサイクルの長さのおよそ6分の1の期間続き、半分以上続くことはない。その長さ以上に反転の動きが続けば、それはトランスレーションの変化を表し、トレンドが変わったことを示す。

反転の動きは、関連する大きいサイクルの時間帯の最低8分の1。ほとんどのケースでは、3分の1から6分の1である。

- ・ 単なる反転であっても目安として重要変化日前後3営業日を見る。
- ・ 重要変化日に向けて上昇していれば天井をつけて下落し、下落していればボトムをつけて上昇する可能性が非常に高い。

位相

相場がプライマリーサイクルのどの部分に位置しているか理解することは、トレードの計画を立てる上で極めて重要。

相場がプライマリーサイクルの種々の局面(位相)で、どのような動きを見せるかを理解することも重要。

サイクルがどの位相に位置するかを知ることが、サイクルによるトレードの成功率を左右する。

プライマリーサイクルあるいは長期サイクルは、その中に、どのような小サイクルが入っているかによって区別される。

- ・ 位相 = P H A S E (フェーズ): ここではサブサイクルのこと。サブサイクルは第1メジャーサイクル、第2メジャーサイクル、第3メジャーサイクルからなり、最後の第3メジャーサイクルのボトムはプライマリーサイクルのボトムであるため、買い場である。
- ・ サイクルと重要変化日を組み合わせることによって相場を冷静に判断できる。